



# 街路樹



## 音楽科の授業改善の視点と実践例紹介

## 社会性を育てる「認める」かかわり

音楽科の学習指導要領には「児童(生徒)が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。」と示されています。

また、音楽科における「1人1台端末」の活用について、「教育の情報化による手引き一追加版一」では、

- ・「歌唱」や「器楽」で演奏した音楽を再現する。
- ・「創作」で楽譜として表した音楽を実際の音で表す。
- ・「鑑賞」で気になったところや、聴き逃したところを聴き返す。

などの様々な場面で有効な視聴覚機器の活用が考えられる。その際、感覚と関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするなどICTの活用の目的を明確にすることが重要である。

と示され、これらを実現するために、教員にはICT活用指導力(ABCプランp.7参照)が求められます。

さらに、音楽科の授業は、音や音楽を耳で捉えることが中心となります。そのため、目で見て情報を理解したり覚えたりすることが得意な児童生徒に対して、ICT機器を活用する他、「聞こえにくさ」や「注意の集中を持続することの難しさ」、「記憶に関する困難さ」を抱えている児童生徒に対しても、ICT機器の活用を工夫し、それらの困難さに配慮することが、学習への理解の深まりにつながります。

児童生徒の実態把握に際して、一人一人の「学び方」や「認知の特性」の在り方についての視点を持ち、ICT機器を効果的に活用した授業を構想し、学習活動の充実を図っていくことが大切です。



～ 参考文献 ～

- 「令和3年度福島県小・中学校教育課程研究協議会資料」
- 「コーディネートハンドブック」
- 「小・中学校学習指導要領」
- 「未来をつくる いわきの学校教育ABCプラン」

「人とかかわりたい」と思う気持ちは、自らの体験によって獲得されます。他の子供と一緒に遊んだりすることを通して、「人とかかわることって楽しい」「人とかかわることって苦痛なことではない」と感じるところから「人とのかかわり」は始まります。

『国立教育政策研究所 生徒指導リーフ18』より引用

もし、嫌なかかわりばかりが積み重なったら、どうなるでしょう。友達や学校が嫌いになってしまうことは容易に予想できます。

では、良いかかわりのために、楽しいこと、ほめることだけを積み重ねれば良いのでしょうか。そうすることが本当に良い関係を築くことになるのでしょうか。

子どもが「認めてもらいたい」ときというのは、大人の基準ではなく子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。

自分がどれだけ頑張ったのか、結果が伴わなくとも努力が認められればうれしいものです。自己有用感の観点では、褒めて(自信を持たせて)育てる発想よりも、認められて(自信を持って)育つ発想の方が子どもの自信が持続しやすいと言われていました。

例えば授業で「ふりかえりシート」を用いているのであれば、児童生徒の振り返りに、ただ「頑張ったね」と書くのではなく、その児童生徒が「こだわった」「見てほしい」点に触れた記述を返します。その第一歩

として、子どもの話にたくさん耳を傾け、その子自身の考えに触れることが大切です。

(こちらからリーフ18をご覧ください→)



## 教育課題改善講座



今年度の「教育課題改善講座」では、キャリア教育やカリキュラム・マネジメントといった喫緊の教育課題の効果的な実践について理解を深めました。

### 【小中学校におけるキャリア教育の実践】

緑川元夫教頭先生より、田人小学校のキャリア教育の実践発表をいただきました。日々の教育活動を行う中で、「どのような力を身に付けさせたいのか」というキャリア教育における基礎的・汎用的能力を明確にすることや、教職員全員で「身に付けさせたい力」を共通理解し、同一歩調で子どもたちへの価値付けを行ったことで、効果的な教育活動を展開できた具体的な事例について、分かりやすく発表していただきました。



### 【学校教育におけるキャリア教育の充実に向けて】

福島大学五十嵐敦先生より、キャリア教育の充実に向けてのご講演をいただきました。職業指導、進路指導といった狭義の意味でのキャリア教育ではなく、子どもたちが社会や毎日の生活に目

向け、自分の将来の夢や目標を考えることができる本来のキャリア教育を進めてほしいとのことでした。また、様々な教育活動を意図的・計画的に取り組む中で、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力といったキャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力を育むことが大切であるというお話をいただきました。

### 【カリキュラム・マネジメントの推進】

宮城教育大学教職大学院猪股亮文先生より、カリキュラム・マネジメントについてのご講演をいただきました。新しい学習指導要領で求められる資質・能力の育成のため、何を学ぶのか、どのように学ぶのかという、学びを子どもの視点に立って捉え直す大切さについてお話しいただきました。また、学校や地域の実態に即したカリキュラムになっているか、継続的な実践が可能か、評価をすることができるかなど、カリキュラムを見つめ直す視点についても教えていただきました。

